

# 下水道管路の最適管理へ

## 管診協 GM工業会と共催で講習会

管路診断コンサルタント協会（会長＝山崎義広・三水コンサルタント社長）は3日、下水道展

の研鑽や研究を進め、成果の発信を通じて下水道事業の運営に貢献していく」と話した。

と同等の調査が可能であり、作業性・安全性が高い調査手法であるため、2021年以降、順次実施している。ドローンによる調査は潜行目視やTVカメラ調査が困難な箇所への適用性が高く、今後は調査箇所に適した調査手法を採用し、予防保全型点検調査を実践していく」と語った。

の併催企画として日本クラウドマンホール工業（会長＝原口康弘・日之出水道機器取締役常務執行役員）との共催による講習会「下水道管路施設のアセットマネジメント

沖野貴之・北海道建設部都市環境課下水道計画係主査は、「ドローンを利用した流域下水道の管路調査」と題して基調講演を行った。北海道の流域下水道事業のストックマネジメント計画や点検調査計画の概要を説明した後、下水道管路のうち調査困難箇所における新たな調査方法としてドローンを活用していることを紹介した。「2020年度に試験的に導入したが、TVカメラ調査

管診協技術委員会技術委員の野村晋久氏は、維持管理情報（TVカメラ調査）のデータベース化に関する導入事例を紹介し、「TVカメラ調査のデータベース化を入口として、維持管理情報と施設情報のマネジメントサイクルを構築し、最適化することが重要。これらのオペレーション技術について、当協会より情報を発信していく」と語った。

冒頭、山崎会長は「当協会は異業種との連携を深め、管路に関する技術

管診協技術委員会技術委員の野村晋久氏は、維持管理情報（TVカメラ調査）のデータベース化に関する導入事例を紹介し、「TVカメラ調査のデータベース化を入口として、維持管理情報と施設情報のマネジメントサイクルを構築し、最適化することが重要。これらのオペレーション技術について、当協会より情報を発信していく」と語った。

最後に、原口会長は同協会がクラウドマンホールの3つのキーワードとして「市民の身近な道路に設置された60坪の空間「鉄の塊」ではなく、テクノロジの集合体」「地下と地上をつなぐインターフェイス」を掲げていることを紹介し、皆さまと連携をさせていただきながら、さらに良いものを提供していきたい」と語った。



沖野主査



原口会長



山崎会長



管路施設のアセットマネジメントをテーマとした講習会

管診協が開発・販売を手掛け

る施設点検用のボール付カメラ「管診鏡」について、マンホール用の「MC」と、管口用の「PC」のそれぞれの活用事例を紹介、今後は使用方法や活用事例、データ活用例などについてマニュアル化を行う予定だとした。